

第5版 2018年12月現在

※ wivia は、株式会社内田洋行の日本における登録商標です。

※ その他の製品名、システム名などは、一般に各社の登録商標または商標です。

本書では、wivia 5のファームウェア、バージョン 5.xの wivia アプリケーション(以降「アプリケー ション1)、バージョン 2.xの wivia Presenter アプリケーション (以降 [wivia Presenter]) について、 以前との変更点、既知の問題、その他クイックマニュアル・取扱説明書に記載していない情報を記載し ます。

■ 準拠バージョン

本書の情報は、以下のバージョン(以降「本バージョン」)に基づきます。

- ファームウェア • v5.1.45.91
- Windows 版アプリケーション v5.1.0.7
- Mac版アプリケーション v5.1.0.5
- iOS版 wivia Presenter v2.0.3
- Android 版 wivia Presenter v2.1.0.0

■ 互換性

- 本バージョンのファームウェアは、wivia 5(WV-51)の本体(以降「本機」)へ適用できます。
- 本バージョンのアプリケーション・wivia Presenter は、wivia 3 (WV-BG-3)・wivia 4 (WV-BG-4)・wivia 5 (WV-51)の本体 (ファームウェアバージョン 3.x~5.x) に接続できます。 1

¹ これ以前の機種の wivia 本体には、対応する OS の端末で、対応するバージョンのアプリケーションをお使いください。

■ 対応 OS

本バージョンのアプリケーションの対応 OS は以下のとおりです。

- Windows 10 (バージョン 1803 で動作確認)、Windows 8.1、Windows 7
- macOS 10.14 Mojave 10.13 High Sierra 10.12 Sierra

本バージョンの wivia Presenter およびモバイル OS からのミラーリング機能の対応 OS は以下のとおりです。

- iOS 10~12
- Android $5 \sim 7$

上記の対応 OS は今後変更する可能性があります。あらかじめご了承ください。

■ 機能の追加・変更・削除

本バージョンでの機能の追加・変更・削除は以下のとおりです。

- ロ ファームウェア
- MAC アドレスフィルタリング機能と、その設定ページを追加しました。
 この機能の概要は以下のとおりです。
 - この機能を有効にすると、あらかじめ登録された MAC アドレスの端末のみが本機のアクセス ポイント機能に接続できるようになります。
 - MAC アドレスは最大 50 件登録でき、ホワイトリスト方式で扱われます。
 - 設定ページでは、対象の MAC アドレスの登録(追加)、一覧表示(閲覧)、削除と、一覧のエクスポート(テキスト形式でのダウンロード)が行えます。
- ロ Windows 版・Mac 版アプリケーション
- 1. 設定画面の「拡張」タブの「拡張モード」の選択肢を暫定的に削除しました。2

² この暫定措置は、拡張表示ドライバーや Syphon virtual screen が一部の環境でシステムエラーを発生させるためです。問題を修正 次第、拡張モードを有効化したアプリケーションを改めて公開する予定です。なお、ホットキーによる複製/拡張モードの切換と、 Windows 版でのコマンドラインの"-e 1"オプションによる拡張モードでの投影は引き続き可能です。

■ 問題の修正・品質の改善

本バージョンでの問題の修正・品質の改善は以下のとおりです。

ロ ファームウェア

- 1. Wi-Fi 設定ページでアクセスポイント機能のチャンネルが一部選択できない問題を修正しました。 併せて、帯域幅が 40MHz・80MHz の際に選択できるチャンネルを変更しました。
- 2. ネットワーク設定ページで DNS サーバーに一部の値を設定できない問題を修正しました。
- 3. 環境により、表示装置に出力される映像がまれに砂嵐状に乱れたり、黒画面になる問題を改善しま した。
- オンスクリーンメニューでリモート操作モードに切り換えた際に不要なカーソルが表示される問題を修正しました。
- 5. wivia Button が接続された際を含む、全体的な動作や通信の安定性を改善しました。
- 6. WebSlides のパスワード認証が有効な場合に、認証ページを迂回できる問題を修正しました。
- 7. 設定を初期化する際、一部の設定値が初期化されずに残る問題を改善しました。3
- 8. 設定値の一部が、まれに意図せず初期値に戻る問題を改善しました。
- 9. Web ページの文字列や動作を一部修正しました。
- ロ Windows 版アプリケーション
- 1. 投影中に表示装置への出力映像の画質が著しく劣化することがある問題を改善しました。
- お気に入りに登録された機器が異なるセグメントにある場合、接続に失敗することがある問題を修 正しました。
- 機器リストでの絞り込み検索の際、灰色で表示されたお気に入りの機器が検索結果に含まれない問題を修正しました。
- 4. 接続中および投影中の動作の安定性を改善しました。
- 5. 文字列や細部の動作を一部修正しました。
- ロ Mac 版アプリケーション
- 1. 文字列や細部の動作を一部修正しました。
- 口 iOS版 wivia Presenter
- 1. 接続操作の際にアプリケーションが強制終了することがある問題を修正しました。
- 2. 一部の Word・Excel・PowerPoint 形式のファイルの表示を改善しました。
- 3. 設定画面の「Functions」画面で完了ボタンの位置がずれる問題を修正しました。

³ パスワード設定の WebSlides のパスワード文字列の値は、引き続き初期値に戻りません。

■ 既知の問題

本バージョンの公開時点で明らかになっている主な問題と、その回避方法は以下のとおりです。

- Windows 10 のバージョン 1703 以上の一部または macOS 10.13.4 以上の環境では、<u>拡張表示ドライバーや Syphon virtual screen をインストールしたり、アプリケーションの設定画面で拡張</u> モードに変更すると、各種グラフィック描画に支障をきたしたり、OS のシステムエラー(ブルー スクリーンや予期せぬ再起動)が発生することがあります。該当する環境では、拡張モード・拡張 表示ドライバー・Syphon virtual screen を使用しないでください。⁴
- 2. 本体設定のトラブルシュートページで設定を初期化する際、パスワード設定の WebSlides のパス ワード文字列の値は初期値に戻りません。また、本機の背面のリセットスイッチで設定を初期化す る際、ネットワーク設定の「アクセスポイント側からの通信」、MAC アドレスフィルタリング設定 の登録済み項目、wivia Button ペアリング設定の暗号化キー、WebSlides 設定のパスワード文字 列の値は初期値に戻りません。これらの値は別途設定を行ってください。
- 本体設定のトラブルシュートページまたは本機の背面のリセットスイッチで設定を初期化する際、 背景設定ページに追加登録された画像は削除されません。これらの画像は別途削除してください。
- 本機に wivia Button を USB 接続してペアリングする際、画面にペアリング完了メッセージが表示 された直後に USB ケーブルを抜くと、wivia Button へのペアリング情報の書き込みが完了しません。メッセージが表示されて 10 秒程度待ってからケーブルを抜いてください。
- 5. 本機の IP アドレスが自動取得の設定の場合に DHCP サーバーのないネットワークに接続して起動 すると、インジケーターLED が青色にならず赤色点灯のまま動作し、表示された IP アドレスで通 信できないことがあります。この場合は、本体設定で IP アドレスを手動設定してください。
- 6. Windows 版アプリケーションをコマンドラインで実行する際、"-u"(ユーザー名)の引数は 20 文字以内で指定してください。長すぎる引数により、本機の動作が不安定になることがあります。
- Windows 版アプリケーションをコマンドラインで起動する際は、USB シミュレーションモードを 使用することはできません。通常(UMT) モードでの動作となります。
- アプリケーションの使用中に、同一セグメント内の本機が自動検出されなくなることがあります。
 この場合は、IP アドレスまたは機器名を直接入力して接続するか、お使いの端末と本機を再起動してください。
- 9. 機器名(画面名)に全角文字を含む 16 バイト⁵の文字列が設定された wivia 3・4 は、アプリケー ションの機器リスト上で機器名の末尾に不要な記号が表示されます。機器名の識別に支障はありま せんが、この問題を回避するには、15 バイト以下の機器名を設定してください。

⁴ 該当しない環境では、必要に応じホットキーを使用することで複製/拡張モードを切り換えられます。

⁵ wivia 3・4 では全角 1 文字を 3 バイトとして扱うため、例えば、全角 5 文字と半角 1 文字や、全角 1 文字と半角 13 文字の機器名が 該当します。

- 10. アプリケーションが wivia 3・4 を自動検出した際、その wivia の機器名(画面名)と SSID の値 が異なる場合、機器名ではなく SSID が機器リストに表示されることがあります。
- 11. アプリケーションでお気に入りリストを表示中に、お気に入りに未登録の機器のアドレスを直接入 カして接続した場合は、当該機器がリストに表示されません。通常の機器リストに切り換えると表 示されます。
- 12. Windows 端末からの投影中、表示装置に出力される映像の右辺・下辺に白く点滅する点状のノイ ズが発生することがあります。一度投影を停止すると解消されます。
- 13. Windows 版アプリケーションを一度終了した後に再度起動しようとした際、まれに正しく起動されないことがあります。この場合は、タスクマネージャーのバックグラウンドプロセスの一覧から wivia.exe を終了してください。
- 14.本機にタッチパネル等を接続し、Windows 版アプリケーションから拡張モードで投影し、本機の オンスクリーンメニューからリモート操作モードに切り換えた際、タッチパネル上での操作が正し い座標に反映されません。リモート操作機能は複製モードでの投影中にお使いください。
- 15. Windows 版アプリケーションで投影中に、USB 操作機器認識方式の設定を「USB シミュレーション」から「通常(UMT)」に変更すると、アプリケーションを終了するまで USB シミュレーション モードでの接続が解除されません。当該設定の変更は投影を停止してから行ってください。
- Windows 10 の一部の環境では、リモート USB ドライバーが正しく認識されず、USB シミュレーションモードでの USB 操作機器との接続に失敗することがあります。この場合は、通常(UMT)モードに変更するか、他の端末をお使いください。
- Windows 版アプリケーションで「常に最前面に表示」を有効に設定している際、他のウィンドウ がアクティブになると wivia アプリケーションが枠のみ表示されることがあります。この場合は、 タスクバーから wivia アプリケーションをアクティブにしてから操作してください。
- 18. 端末の画面解像度によっては、元の画面と異なるアスペクト比の映像が表示装置に投影されること があります。この場合は、端末側を他の解像度に切り換えてお使いください。
- 19. Mac版アプリケーションで、投影中にモードの値を複製から拡張に変更すると、アプリケーション が予期せず終了することがあります。当該設定の変更は投影を停止した状態で行ってください。
- 20. スタンドアロン(既存ネットワークに接続せず単体)で動作中の本機に、3G/4G 通信と Wi-Fi を両 方利用できるスマートフォンやタブレット端末を Wi-Fi で接続した場合、当該端末から 3G/4G 通 信によるインターネットへのアクセスは行えません。なお、当該端末が iOS の場合、本機の本体設 定のネットワーク設定ページで DHCP サーバーの DNS サーバーの値を"0.0.0.0"に設定すると、 3G/4G でインターネットへアクセスできることがあります。⁶
- 21. 端末の機種によっては、アプリケーションがシステムの音声をキャプチャーできず、端末の音声が 本機に送信されないことがあります。一部の Windows 環境では、「サウンド」コントロールパネ

⁶ 今後の本機または iOS の仕様変更により挙動が変わる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

ルで再生デバイスのプロパティ画面を開き、「このデバイスでオーディオのハードウェアアクセラ レータを許可する」をオフに設定する⁷ことで解決することがあります。

- 22. 状況によっては、使用中にアプリケーションや本機の動作が不安定になることがあります。この場合は、アプリケーションと本機を再起動してから再度お使いください。
- 23.本機のアクセスポイント機能に複数の端末を接続し、いずれかの端末との間で大量のデータ転送が 行われると、他の端末との通信や接続が一時的に不安定になることがあります。この場合は、全体 の通信負荷が下がってから再度試みてください。
- 24. 本機の NAT モードでの無線アクセスポイント機能側のネットワークは、サブネットマスクが 24 ビットの構成でのみ正しく動作します。ホスト IP アドレスと DHCP サーバー開始/終了アドレスの第 1~第 3 オクテットに異なる値を設定したり、サブネットマスクに 255.255.255.0 以外の値を設定すると、意図しない動作をすることがあります。
- 25. iOS 端末からの画面投影機能は、画面全体をミラーリングするモードにのみ対応しており、動画などのコンテンツを単独でストリーミングするモードには対応しておりません。投影中にストリーミングモードに切り替わった場合は、投影が中断されます。投影を再開するには、ストリーミング中のコンテンツを終了し、端末のコントロールセンターで再度投影操作を行ってください。
- 26. Android 版の wivia Presenter の画面ミラーリング機能を使用すると、端末のマイクが集音した音声が本機に送信され、ハウリングの原因となることがあります。この場合は、wivia Presenter の設定画面で Audio Mirroring をオフに設定するか、Google Cast による画面ミラーリングをお使いください。
- 27. iOS 版の wivia Presenter の設定画面で、機能選択画面の完了ボタンがタップできない位置に表示 されます。この画面の設定変更を反映するには、端末の画面を回転してから完了ボタンをタップす るか、アプリを強制終了して再度起動してください。
- 28. 本機の WebSlides ページのパスワード認証が「パスコードに連動」に設定されている場合、パス ワード認証ページの表示後に本機のパスコードが更新されると、更新後のパスコードを入力しても ログインに失敗します。ページを表示した時点でのパスコードを入力するか、ページを更新してか ら現在のパスコードを入力してください。
- 29. 一部のブラウザーでは、本機の WebSlides ページの画像保存ボタンを押しても画像がダウンロードされません。この場合は、画像を右クリックし「名前を付けて保存」を選択してください。
- 30. 一部のブラウザーでは、本機の Web ページを初めて表示する際、端末の言語設定にかかわらず英語のページが表示されます。必要に応じて、ページ内の言語選択メニューで日本語を選択してください。
- 本機の MAC アドレスフィルタリング設定ページで登録できる MAC アドレスは最大 50 件のため、
 51 件目以降は登録されずに無視されますが、この際にエラーメッセージは表示されません。

⁷ この項目は端末の機種によっては表示されません。また、オフに設定しても問題が解決しないことがあります。

- 32. 本機の日付と時刻の設定ページで NTP サーバーの値が空欄に設定された場合は、初期値 (pool.ntp.org) へ問い合わせが行われます。問い合わせを行わないようにするには、"0.0.0.0" を設定してください。
- 33. 本機の起動時に NTP サーバーへの問い合わせに失敗した場合は、本体設定の日付と時刻のページ で実際と異なる日時が表示されることがあります。

■ 制限事項

本機の設置・使用、本バージョンの適用・使用にあたっては、以下の事項にご留意ください。

- ファームウェアを v5.0.00.123 または v5.0.03.125 から v5.1.11.53 以降へ更新する際、本機 が有線 LAN でネットワークに接続されていてアクセスポイント機能が有効な場合、更新前後で本 機の動作がブリッジモードから NAT モードに変わり、アクセスポイント側の IP アドレスなどのネ ットワーク構成が変化します。該当する構成の場合は、更新後に本機のネットワーク設定をご確認 ください。
- DHCP サーバー機能は、ネットワーク設定が NAT モードの場合に自動的に有効に、ブリッジモードの場合に自動的に無効になります。NAT モードの場合に無効にしたり、ブリッジモードの場合に 有効にすることはできません。
- 無線ステーション機能は、ネットワーク設定が NAT モードの場合のみ有効に設定できます。アク セスポイント機能とステーション機能を同時に有効にする場合は、NAT モードである必要があるた め、アクセスポイント側へは常に DHCP サーバー機能が動作します。
- 無線ステーション機能は、周囲の電波状況や接続先のアクセスポイントとの組み合わせによっては、 接続に失敗すること、または動作中に接続が不安定になることがあります。このような場合は本機 を再起動するか、本機を有線 LAN でネットワークに接続してください。また、当該機能を前提と した設置にあたっては、あらかじめ実環境で接続性・安定性を評価してください。
- 5. v5.1.11.53 で本体設定の詳細な動作設定ページに追加された「本機を PresentSense で検出可能にする」の値は、初期値は有効ですが、ファームウェアを v5.0.03.125 以前から v5.1.11.53 以降へ更新した際には無効になることがあります。当該機能を使用する場合は、アップデート後に設定値を確認し、必要に応じ設定を変更してください。
- 6. Windows 版アプリケーションは、Windows 10のSモードと Windows RT では動作しません。
- v5.0.0.26 未満のバージョン 5.x の Windows 版の設定ファイルは、保存場所が異なるため、
 v5.0.0.26 以上へは引き継がれません。⁸

⁸ 設定値を引き継ぐには、"%localappdata%¥wivia"フォルダーにある favorite.xml、UserName.txt、wivia.ini

を、"%localappdata%¥wivia 5"フォルダーに移動またはコピーしてください。

- 8. バージョン 3.x 以前のアプリケーションの設定情報は、設定ファイルの仕様が異なるため、本バー ジョンへは引き継がれません。
- 9. v5.0.0.26 よりも前のバージョンは、以降のバージョンが上書きインストールされた後もレジスト リにエントリが残ります。⁹
- 10. アプリケーションや拡張表示ドライバー、Syphon virtual screen が生成する拡張デスクトップは、 選択・変更できる解像度が限られ、端末のメインディスプレイや本機に接続された表示装置と同じ 解像度を選択できないことがあります。
- 11. 本機に USB 接続した操作機器を標準 (UMT) モードで使用する場合、Windows のスクリーンキー ボードなど一部のアプリケーションを操作できません。これらは、wivia アプリケーションを管理 者として実行することで操作できます。
- 12. 電子黒板機能等を搭載したタッチパネルディスプレイ、インタラクティブユニット、プロジェクタ
 一等の装置を本機に USB 接続する場合、一部の機器では電子黒板やタッチパネルの機能が正常に
 動作しないことがあります。
- 本機の電源を切るかネットワークから切断した後、しばらくの間、本機が Mac 版アプリケーションや iOS・Android 版 wivia Presenter から自動検出され続けることがあります。これは、本機の 自動検出に使用される mDNS プロトコルに対する各 OS の仕様によるものです。
- 14. wivia 5 は動画ファイルのストリーミング再生機能に非対応です。このため、wivia Presenter で wivia 5 に対して動画ファイル再生の操作を行うとエラーメッセージが表示されます。
- 15. wivia Presenter の OneDrive 参照機能は、個人用の Microsoft アカウントを使用する OneDrive にのみ対応しています。組織の Office 365 アカウントを使用する OneDrive for Business には接続できません。
- 16. iOS 端末・Android 端末からの画面投影機能は、AirPlay・Google Cast との完全な互換性を保証す るものではありません。OS や端末の仕様・性能、または AirPlay・Google Cast の技術仕様の事情 により意図する動作とならない可能性がある旨、あらかじめご了承ください。
- 17. iOS 端末の AirPlay 機能で本機に接続する際、本機のパスコードが固定の場合は、同一端末での 2 回目以降の接続時にはパスコードが求められません。これは iOS の仕様によるものです。
- 18. Android 端末等から Google Cast 機能で本機に接続する際は、本機にパスコードが設定されていて もパスコードが求められません。これは Google Cast の仕様によるものです。
- 19. Android 端末等から Google Cast 機能で本機に接続するには、本機がネットワークに接続され、時 刻が NTP サーバーと同期されている必要があります。¹⁰

⁹ そのままでもコンピューターの動作に支障はありませんが、不要なエントリを残したくない場合は、古いバージョンをアンインスト ールしてから新しいバージョンをインストールしてください。

¹⁰ 本機をスタンドアロンで動作させる場合、起動後にいずれかの端末から wivia アプリケーションか wivia Presenter で接続すると、 本機に当該端末の時刻を同期できます。ただし、この方法で同期される時刻には、日本標準時と1時間の差が生じます。

- 20. 本機のアクセスポイント機能の設定値が、帯域幅が 40MHz または 80MHz に設定され、チャンネルが手動設定になっている場合、セカンダリーチャンネルは、手動設定で選択されたチャンネルの前か後ろのいずれかが自動的に使用されます。
- 本体設定のネットワーク設定ページのホスト IP アドレスの値には"192.168.10.x"(x は任意の値)
 を設定できません。¹¹
- 22. 本体設定の画面解像度が「自動検出」の場合、表示装置によっては、解像度が適切に認識されず映像の位置や縦横比が不自然に出力されることがあります。この場合は「自動検出」以外の値に設定してください。
- 23. HDCP に非対応の表示装置や、表示装置・音響装置によっては、本機から出力された HDMI 信号を 正しく検出・入出力しないことがあります。
- 24. 司会者の操作でロックを有効にしている間は、一般の利用者からの投影開始操作が制限されます。 ただし、このとき投影中の利用者が投影を一時停止・停止する操作は制限されません。
- 25. 本機の問題調査ログは可読形式ではないため、お客様が閲覧・活用することはできません。
- 26. Atom や Celeron などの処理性能が比較的低い端末では、投影時の CPU 負荷が高くなり、映像や 音声に遅延やノイズが発生しやすいことがあります。他のアプリケーションを終了したり、音声の 送信をミュートすることで負荷が軽減することがありますが、効果が見られない場合は他の端末を お使いください。
- 27. アプリケーションや関連ドライバーなどを本機のWebページやサポートWebサイトからダウンロードする際、「安全性を確認できないファイル」などの警告が表示され、ダウンロードや実行の中止を推奨されることがあります。処理を許可するか、セキュリティ設定を変更することで続行できますが、組織の指針等に従ってご対応ください。
- 28. USB メモリーへのアクセスがブロックされている環境で USB メモリーからアプリケーションを実行するには、セキュリティ設定の例外への登録などの設定変更が必要となります。組織のシステム管理者にお問い合わせください。
- 29. シンクライアント環境や仮想環境では、アプリケーションが正しく動作しないことや、環境のクラ ッシュなどの問題を発生させることがあり、動作はサポートされません。これらの環境での使用を ご検討の場合は、あらかじめお客様により動作検証を行いご判断ください。
- 30. 一部のポップアップ画面やオーバーレイ要素、コピーガードの施された映像などは、本機から正しく投影されないことがあります。また、一部のアプリケーションは、wivia アプリケーションの画面投影機能と併用できないことがあります。
- 31.本機は24時間365日の連続動作を保証していません。使用終了後は本機の電源を切ってください。 やむを得ず連続動作させる場合や、高所や閉所などに設置する場合は、中間スイッチを設けるなど、 必要な際に利用者が再起動できる方法で設置してください。

¹¹ ホスト IP アドレスは NAT モードの際の本機のアクセスポイント機能の配下にのみ使用するアドレスのため、他のアドレスを設定してください。なお、WAN 側 IP アドレスの値には"192.168.10.x"を設定できます。

32. 高い信頼性・安全性が必要な用途には、あらかじめフェールセーフ設計や冗長設計などの措置を講 じたうえで本機を使用してください。また、人命に関わる装置や社会インフラなど、極めて高い信 頼性・安全性が必要な用途には、本機を使用しないでください。

以上